

研究教育業績（2014-2018 年度）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文] 査読あり

- 1) **Osabe M.**, Tajika T., Tohkin M., Allopurinol suppresses expression of the regulatory T cell migration factors TARC/CCL17 and MDC/CCL22 in HaCaT keratinocytes via restriction of NF- κ B activation. *J. Appl. Toxicol.* **38**(2):274-283 (2018).
- 2) Shizu R., **Osabe M.**, Perera L., Moore R., Sueyoshi T., Negishi M., Phosphorylated nuclear receptor CAR forms a homodimer to repress its constitutive activity for ligand activation. *Mol Cell Biol* **37**(10): e00649-16 (2017).
- 3) **Osabe M.**, Tohkin M., Hirayama N., In silico analysis of interactions between HLA-B*58:01 and allopurinol-related compounds. *Chem-Bio Inform.* **16**: 1-4 (2016).

[総説]

[著書]

[その他]

- 1) 長部誠, 薬学教育・研究に関する抱負, 埼玉県薬剤師会雑誌, **45**(2):18-19 (2019).
- 2) 長部誠, DNA 標識金ナノ粒子による遺伝子診断, 日本薬科大学教育紀要, 第 V 巻 (2019).

2. 主な学会発表

[国際学会]

一般発表

- 1) Makino R., Okamoto H., **Osabe M.**, Tohkin M., The effect of lapatinib on lymphocyte activation and transcription factors in T cell differentiation. WCP2018 (18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology), July, Kyoto (2018).
- 2) Okamoto H., **Osabe M.**, Hirasawa M., Tohkin M., The evaluation of lapatinib induced hepatotoxicity using an *in vitro* evaluation system for HLA-DRB1*07:01. Society of Toxicology 56th Annual Meeting and ToxExpo, March, Baltimore, Maryland (2017).
- 3) Narita T., Ri M., Kinoshita S., Yoshida T., Totani H., Ashour R., Masaki A., Ito A., Kusumoto S., Ishida T., Komatsu H., **Osabe M.**, Tohkin M., Iida S., Identification of Circulating Serum microRNAs As Novel Biomarkers Predicting Disease Progression and Sensitivity to Bortezomib Treatment in Multiple Myeloma. The American Society of Hematology December, San Diego, California (2016).
- 4) **Osabe M.**, Okada Y., Shibakita K., Yamada R., Kawai S., Tohkin M., Genetic variations in abcb1 influence pharmacokinetic parameters of simvastatin. 19th North American ISSX Meeting / 29th JSSX Meeting. October, San Francisco, California (2014).

[国内学会]

シンポジウム

- 1) **長部誠**, 頭金正博, アロプリノールによる制御性 T 細胞遊送因子を介した皮膚免疫機能感作, 日本薬物動態学会第 31 回年会, 10 月, 松本 (2016).
- 2) 平沢真, **長部誠**, Lapatinib による特異体質性肝毒性と HLA-DRB1*07:01 の関連性, 日本薬物動態学会第 31 回年会, 10 月, 松本 (2016).

一般発表

- 1) 槇野隆太, **長部誠**, 頭金正博, HLA-B*58:01 を介したオキシプリノールによる特異体質性副作用 in vitro 評価系の構築, 第 1 回医薬品毒性機序研究会, 1 月, 名古屋 (2019).
- 2) 宮路康平, 岡本秀人, 槇野隆太, **長部誠**, 頭金正博, Lapatinib による T 細胞分化誘導機構の解析, 第 1 回医薬品毒性機序研究会, 1 月, 名古屋 (2019).
- 3) 中嶋琢人, 亀位涼, 坂部彩, 岡本秀人, **長部誠**, 頭金正博, CLC Genomics Workbench を用いた HLA タイピング法と他のタイピングソフトとの比較, 第 4 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム, 9 月, 東京 (2018).
- 4) **長部誠**, 研究紹介: 特異体質性副作用のバイオマーカー探索, 平成 30 年度第 2 回日薬研究会, 5 月, 伊奈 (2018).
- 5) 富吉紘史, **長部誠**, 柴北健佑, 頭金正博, ABCB1 変異型の P 糖タンパク質排出機能への影響, 日本薬物動態学会第 32 回年会, 11 月, 東京 (2017).
- 6) 岡本秀人, **長部誠**, 頭金正博, Lapatinib による T 細胞分化誘導機構の解析, 日本薬学会東海支部合同学術大会 2017, 11 月, 三重 (2017).
- 7) 平石千紘, **長部誠**, 田村花梨, 頭金正博, HLA-B*57:01 を介したアバカビルによる特異体質性副作用 in vitro 評価系の構築, 第 3 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム, 9 月, 東京 (2017).
- 8) 岡本秀人, **長部誠**, 頭金正博, Lapatinib による T 細胞分化因子への影響及びその誘導機構の解析, 第 44 回日本毒性学会学術年会, 7 月, 横浜 (2017).
- 9) Tajika T., **Osabe M.**, Tohkin M., The effect of allopurinol on human Treg migration factors, 第 45 回日本免疫学会学術集会, 12 月, 沖縄 (2016).
- 10) Tamura T., **Osabe M.**, Tohkin M., The establishment of in vitro evaluation system for the HLA-B*57:01-dependent cutaneous toxicity caused by abacavir, 第 45 回日本免疫学会学術集会, 12 月, 沖縄 (2016).
- 11) **長部誠**, 田近聡幸, 頭金正博, アロプリノールによる制御性 T 細胞遊送因子への影響, 第 43 回日本毒性学会学術年会, 6 月, 名古屋 (2016).
- 12) 植松紘規, 岡本秀人, **長部誠**, 頭金正博, 次世代シーケンサーを用いた HLA 解析法の確立, 日本薬学会東海支部合同学術大会 2016, 10 月, 岐阜 (2016).
- 13) 槇野隆太, 井口祐美子, **長部誠**, 頭金正博, 特異体質性副作用に関連した HLA 結合ペプチドの探索, 日本薬学会東海支部合同学術大会 2016, 10 月, 岐阜 (2016).
- 14) 岡本秀人, **長部誠**, 平沢真, 頭金正博, HLA クラス II が関与する特異体質性副作用の評価系を用いた Ximelagatran による免疫性副作用の発症機構の解析, 第 25 回日本組織適合性学会大会, 10 月, 札幌 (2016).

- 15) **長部誠**, 岡本秀人, 植松紘規, 頭金正博, 次世代シーケンサーを用いる簡便な HLA 解析法の確立, 第 25 回日本組織適合性学会大会, 10 月, 札幌 (2016).
- 16) 柴北健佑, **長部誠**, 富吉紘史, 頭金正博, ABCB1 変異型による P 糖タンパク質排出機能の低下, 日本薬物動態学会第 31 回年会, 10 月, 松本 (2016).
- 17) Ri M., Okemoto K., Maekawa K., Ito A., Kusumoto S., Ishida T., **Osabe M.**, Nakajima M., Sekine A., Ueda R., Tohkin M., Miyata N., Saito Y., Iida S., 血清の脂質メタボローム解析を用いた多発性骨髄腫治療におけるボルテゾミブの感受性因子の探索, 第 78 回 日本血液学会学術集会, 10 月, 横浜 (2016).
- 18) 岡本秀人, **長部誠**, 平沢真, 頭金正博, HLA クラス II が関与するリンパ球活性化における Ximelagatran の影響, 第 43 回日本毒性学会学術年会, 6 月, 名古屋 (2016).
- 19) **長部誠**, 柴田郁弥, 安部賀央里, 石原佳奈, 田村空彌, 頭金正博, 毒性試験データベースを用いた化学物質によって誘発される肝肥大と薬物代謝酵素誘導との関連性に関する研究, 日本薬学会第 136 年会, 3 月, 横浜 (2016).
- 20) **長部誠**, 岡本秀人, 頭金正博, Lapatinib による HLA クラス II を介するリンパ球活性化作用 第 38 回日本分子生物学会年会, 第 88 回日本生化学会大会 合同大会, 12 月, 神戸 (2015).
- 21) 横田俊, **長部誠**, 頭金正博, 石塚賢治, 石田高司, 伊藤旭, 李政樹, 飯田真介, 上田龍三, HLA-DRB1 遺伝子解析手法における既報の方法との比較・検討, 第 38 回日本分子生物学会年会, 第 88 回日本生化学会大会 合同大会, 12 月, 神戸 (2015).
- 22) 井口祐美子, **長部誠**, 田村花梨, 岡本秀人, 頭金正博, ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV-6) 由来のペプチドプールを用いた HLA-B*58:01 結合ペプチドの探索, 第 38 回日本分子生物学会年会, 第 88 回日本生化学会大会 合同大会, 12 月, 神戸 (2015).
- 23) 田近聡幸, **長部誠**, 頭金正博, アロプリノールによるリンパ球遊走因子に与える影響, 第 38 回日本分子生物学会年会, 第 88 回日本生化学会大会 合同大会, 12 月, 神戸 (2015).
- 24) 岡本秀人, **長部誠**, 頭金正博, HLA クラス II が関与するリンパ球活性化 *in vitro* 評価系の構築, 第 38 回日本分子生物学会年会, 第 88 回日本生化学会大会 合同大会, 12 月, 神戸 (2015).

他 4 件

3. その他特筆すべき研究業績

- 1) 長部 誠 (代表) 日本薬科大学研究助成金, 「肥満と PPAR γ による免疫機能への影響に関する研究」, 200 千円 (平成 30 年度)
- 2) 長部 誠 (代表) 科学研究費補助金若手研究 B (文部科学省), 「重症薬疹の発生リスク回避を目指した革新的 HLA タイピング法に基づく診断薬の開発」, 4,160 千円 (平成 29-30 年度)
- 3) 長部 誠 (分担) TaNeDS (第一三共), 「HLA が関与する特異体質性副作用の *in vitro* 評価系と発症機序に関する研究」, 8,695 千円 (平成 28 年度)
- 4) 長部 誠 (代表) 特別研究奨励費 (名古屋市立大学), 「制御性 T 細胞に関わる核内受容体に着目した免疫機能制御」, 500 千円 (平成 26 年度)

II. 教育業績

1. 担当授業科目

2018 年度

- 1) 卒業研究 (薬学科、5 学年)

- 2) 環境・健康科学実習（薬学科、3 学年）
- 3) 栄養と健康（薬学科、2 学年）
- 4) 薬学総合演習 I（薬学科、4 学年）1 コマ
- 5) 薬学総合演習 II（薬学科、6 学年）1 コマ

（以下名古屋市立大学での実績）

2017 年度

- 1) 医療機能系実習 II（薬学科、3 学年）2 コマ

2. その他特筆すべき教育業績

- 1) 長部 誠，薬物乱用防止講演，東京都立荒川商業高等学校，7 月（2018）